

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873400352		
法人名	社会福祉法人保内園		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	茨城県久慈郡大子町矢田1247-2		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0873400352-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成26年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは田園地帯の中の住宅地にあり、四季の移ろいを体いっぱい感じることにできる恵まれた環境の中で、「ここに入居してよかった」と心から感じていただけるグループホームを作ろうと職員一同頑張っています。この姿勢は開設当初から一貫して変わりません。それには居心地の良い家庭を作ること。一番心がけているのは家庭的な雰囲気づくりです。家庭的とは設備や調度品ばかりでなく、最も大切なのは温かな人間関係にあると私たちは考えます。入居者から信頼され心からの笑顔を見せてくれたとき大きな喜びを感じる職員、共に笑い共に涙する心優しい職員が揃っています。そんな職員たちがいる温かい家庭が私たちのグループホームです。なお、平成24年5月に1ユニット増設となり、2ユニット(定員18人)になりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年から認知症ケアに関わっているホームであり、職員の専門性は高く、式号館の運営に際してもベテラン職員と新入職員が丁寧に関わりながら、利用者それぞれが安心して過ごせるホームづくりをしている。ホームの運動会には地元の方々や老人会員、幼稚園児などが多数参加し、町文化福祉会館で行われる幼稚園のクリスマス会に招待されるなど町内にすっかり溶け込んでいる。一昨年の式号館設立に当たってもホームに隣接する土地を快く提供してくれる等、地域住民との関係がたいへん良いホームである。また防災対策として地域が防災サポーターを組織していたり、職員は火災時の対応として行動パターンを具体的に示し常に確認をする等利用者の安全を守る対策を徹底して行っている。各ユニットはそれぞれが協力しながらも、独立したユニットとして利用者の状態に応じ、それぞれに買い物・食事づくり等に取り組んでいる。利用者は家族や友人、知人、ボランティア等の訪問や地域のイベント、リンゴ狩り等常に地域の方々と交流している。またそれぞれが役割を持ちながらも職員とコタツでのんびりテレビを見たり、趣味を楽しんだりして豊かな自然に囲まれた環境の中で楽しみの多い日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性を重視した開設当初からの理念を大切にしている。ミーティングで理念を復誦し理解を深めるとともに、日々の業務に反映するよう努めている。	全職員が毎日確認しあっている理念は開設時に考えたものであるが、当初から地域密着型サービス事業所として設立された法人であり、地域密着型サービス事業所の意義や役割を踏まえた理念となっている。全職員は理念に愛着を持ち、常に理念を意識しながら日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元幼稚園の運動会・発表会の招待やホームにも園児が訪れる。母体施設と共同で実施する盆踊り・運動会は、老人会・子供たち・ボランティア等の地域住民が多数参加して一緒に盛り上げている	開設当時から地域の老人会・幼稚園との交流やボランティアの協力があり、地域と密接な関係が構築されている。一昨年のホーム増設に際しても、地元の方が土地を快く提供してくれる等、ホームは地域に理解され頼りにされている。母体施設と交代で実施している運動会や盆踊りは地域の子どもから大人まで多数参加があり、お囃子などのボランティアの方々も一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習や職場体験、視察研修、見学等の受け入れ時に認知症の理解や接し方について理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画に基づき、2ヶ月に1回開催している。利用者に関する活動内容、職員に関する活動内容、利用者の状態等を報告するとともに、評価結果についても報告し、いただいた意見をサービスに反映するよう努めている。	家族や町の担当職員、区長、ボランティアの代表者等が集まり2ヶ月に1回開催している。開催日は年間計画を作成して出席しやすいようにしており、時期に合った意見や提案をいただいている。会議では事業報告等も含め事故報告や利用者の日頃の様子を丁寧に伝え、率直な意見や提案をいただいている。出席者からの提案で消費税前に車検の実施や消防設備の点検等が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の暮らしぶりや状況を伝えるとともに町からは福祉行政についての情報をいただいて活用している。	運営推進会議には担当職員や福祉課の課長補佐が出席している。会議後にはホームに暮らす利用者とは顔を合わせる機会も多く生活ぶりや活動状況について十分に知っている。日頃から町役場の職員とは情報を共有し、何でも相談しやすく情報等も適宜いただけるような関係作りが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を通して職員の共通理解を図るとともに行動指針を設け取り組んでいる。ご家族にも自由な暮らしの重要性について理解を得るよう努めている。	職員は「行動の指針」を作成し、利用者の自由な行動を守ることを常に心がけている。利用者が一人で外に出てもお守り型のセンサー（玄関口に反応する）が反応し職員が同行できるように工夫をしたり、夜は居室のサッシ（入り口ドア以外）が開くと職員室で察知できるようにする等、様々な工夫して利用者が自由に行動できるようにしながらも安全に生活できるような工夫をし拘束の無いケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法、公益通報者保護法に関する勉強会を実施し、関連法の理解と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連制度のファイルを常備すると共に勉強会を開き理解を深めている。自立支援事業担当者等の関係者と話し合い、必要な方には制度を活用していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等で入居や解約に関わる内容や運営理念、苦情解決の方法等について説明し、利用者やご家族等の理解を得るよう努めている。解約時は退居後の生活に関する相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置したり、毎月家族へ送付する利用者の「生活の様子」報告書で意見・要望を募っている。家族の来訪時や毎月開催の家族ふれあいデー等で気軽に意見を言える雰囲気と機会を設けている。	運営推進会議や毎月の家族ふれあいデー等では、気楽な話しあいの中から率直な要望等を聴き運営に反映させている。各ユニットのリーダーは毎月のお便りで利用者一人ひとりの健康・食事・服薬等の生活全般について、写真付きの情報を伝えながらホームでの暮らしぶり等を知ってもらうと同時に何時でも意見・要望を伝えてくれるようお願いしている。ホームの意見箱を玄関の外に置いたり、記入しやすい用紙を備える等、気兼ねなく手軽な方法で意見や要望を伝えられるような工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をいつでも傾聴する姿勢であり、ボランティアの導入・休憩時間の見直しによる職員の負担軽減等、よい意見や提案は日々の運営に反映させている。	ホーム全体には常に率直な話し合いの出来る雰囲気があり、ミーティングでは様々な意見や提案が出されている。19歳から66歳までの経験豊富な職員や新入職員など、それぞれの職員が得意分野に力を発揮しており、菜園を敷地内の一角に設けたり、法人と合同のイベントにアイデアを盛り込んだりと職員の意見や提案をホームの運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスに配慮した休憩室や休憩時間の確保、給与の待遇改善等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加するとともに毎月の内部勉強会や日々の業務の中でも知識や技術を身につけていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に同業者が開業したので、今後、相互訪問等の交流活動ができればと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問では、雑談をまじえながら本人の思いをゆっくり聞くようにしている。ホームへ持ち込む品物なども本人の希望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問やホーム来訪時・電話で家族等の話を聞いている。ホームでの暮らしを詳しく説明して不安を解消していただいたり、家族の要望で入居日を調整したり、家族へ入居後の協力を依頼したり、双方の思っていることを出し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や必要性、緊急性を見極め、当方以外のサービスを紹介したり、居宅介護支援事業所のケアマネージャーに繋いだり柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時季の行事やしきたり、ホームの畑では農作業の進め方など暮らしの中で職員が利用者から聞いて学ぶ機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来やすく話しかけやすい雰囲気作りを大切にしている。皆で昼食を共にする毎月の家族ふれあいデーの開催やホーム便り等は家族と職員が一体となって本人を支えていく上で大切なアイテムになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。かかりつけの理髪店や美容院に行っていたり、馴染みの商店や菩提寺の訪問に付き添ったり、家族の協力で自宅や親戚、友人宅の訪問や墓参りをしていたりしている。	利用者が町内の方々であることが家族や友人・知人の面会を多くしており、利用者が職員の知り合いであったり、利用者同士や他の利用者の家族同士が知り合いであったりとホームの日常の生活に馴染みの関係があり、利用者は落ち着いた生活が出来るようになっている。カメラが趣味の利用者には作品を飾るコーナーを設け今までのように趣味を継続していただいたり、家族や地域の方々の協力も得ながら墓参りや買い物に行くなど、自宅に居た時と同じように馴染みの場や人と関わりながら生活が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	孤立しがちな利用者や関係が悪化しそうな利用者 は、職員が他の利用者との仲を取り持っている。家 事や畑仕事、行事、レクリエーション等で利用者同士 が共にを関わり合い、支え合える機会を設けてるよ うにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も継続的な関わりを大切にしている。退 居された利用者を自宅や入院先に訪ね様子を 伺ったり、本人や家族の相談に応じるようにし ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人からの聞き取りや日常の様子を行動記録 表に記録することで、本人の意向や思いを汲 み取り、本人本位で検討している。	行動の記録表を詳細に記録することで常に利用者一人ひ とりの意向の把握に努めている。新しいユニットの増設に 伴い、思いを言葉で伝えることが困難な利用者の安心した 暮らしを実現するため、記録を基に様々に工夫したこれま での経過などを新職員に伝えながら職員間での情報の共 有を図り、また新利用者の暮らし方への思いを把握するた めの話し合いを丁寧に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の訪問や家族や本人から生活歴、生活 の様子、家庭状況等の情報をいただいて把握 に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居時に家族や本人から一日の様子や身体 状況、認知症の発症経過等の情報をいただい たり、健康診断書で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人や家族からいただいた情報、生活の様子 などから本人がより良く暮らすための課題を明 らかにしている。家族からの要望や本人、関係 者の意向も汲んだ介護計画となるよう努めて いる。	行動記録表などを基に丁寧なアセスメントを実施し、本人 の思いや家族の意向や、職員のアイデア等を取り入れて それぞれの暮らしに反映できる介護計画を作成している。 新しい利用者の場合には家族・病院などからの情報を基 に介護計画を作成し、利用者の生活ぶりを見ながら半月 毎に全職員で話し合い、モニタリング・見直しを繰り返して 本人にとって必要な支援を精査し、ユニットリーダー(計 画作成担当者)を中心にして介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等は個別の行 動記録表、健康管理ノート、バイタルチェック表 等に記録し、情報を共有しながら実践や介護 計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接老人ホームとの協働開催行事への参加などのサービスが利用できる。本人、ご家族の状況により通院付き添いや送迎等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアグループの協力で買い物、散歩へ外出できるようにしたり、馴染みの理美容室の方に送迎をお願いしたり、商店や菩提寺等に引き続き対応を依頼したりしている。警察、消防へも情報を送り協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医が継続受診できるようにしている。現在は二つの医療機関でそれぞれ週1回往診があるとともに、地元の精神科医の受診もでき、心身の変化に適切な対応をしていただいている。	以前からのかかりつけ医受診を継続する利用者があり、それぞれの医療機関の医師による往診が週1回あり、利用者の健康状態は常に把握されている。また月1回精神科を受診する利用者もあり、それぞれの結果は一人ひとりの健康管理ノートに丁寧に記録され、本人・家族・各医療機関・職員が共有できる仕組みができており、緊急時でも安心して適切な医療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老人ホーム看護師や往診担当看護師に情報や気づきを伝えて相談し、日頃の健康管理や適切な医療を受けるための助言や指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時等から医師、看護師との情報交換や相談に努めている。入院後も定期的な入院先を訪問し、病院関係者から経過説明等の情報を得て早期退院と退院後の受け入れ環境を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして看取りはしない方針であり、重度化した場合の対応や事業所としてできないことについては指針を作成し、本人・家族に説明している。	看取りは行わない事としているが、終末期ケアについては「終末期ケア対応指針」に基づき適切なケアが出来るようにしている。入院後、医師による医学的知見により退院の見込みがない場合や医療の継続が必要な場合には、本人・家族と話し合い協力医療機関への入院継続や介護老人保健施設入所などの支援を行っている。入院中でも2～3日に1回は見舞いに行き、衣類の洗濯をしたりしながら病状の把握をして退院後のケア継続に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救急法講習会に毎年参加している。内部研修で定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から緊急時の避難経路や対応を確認するとともに、定期的な避難訓練を実施し、年一回は消防署員の立会いを得ている。地域の方が防災サポーターとして協力、一緒に避難訓練も実施している。	地域住民によって防災サポーターが組織されている等、火災時・災害時も含めて常に地域からの協力が得られる体制が出来ている。火災については新ユニット設置を受け、火災時の対応としてケース1～3までの行動の指針を作成して職員の行動を具体的に示しており、毎朝のミーティング時に全員で確認し、緊急の場合にも落ち着いて行動できるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳とプライバシーの守り手としての意識を持ち、利用者丁寧と丁寧に接している。食事・入浴・排泄等のケアや暮らしの中でのさまざまな場面において、自分たちの態度や言葉遣い、対応の仕方に気を付けている。	全職員は「行動の指針」を作り、職員は丁寧語や敬語を使うことを約束としており、常に利用者一人ひとりを尊重したケアが出来るようにしている。利用者との会話は親しみを込めながらも丁寧で、言葉のやりとりにもゆっくりと待つ姿勢が見られた。意思表示が困難な利用者の思いをくみ取り、さりげないケアが出来るよう共用の場を常に職員が居る台所近くに作る等の気配りなども丁寧に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの介助で好きな衣服を選んでいただいたり、利用者の献立作りへの参画や外食や喫茶で好きなメニューを選んだり、暮らしの中に自己決定の場面を用意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で無理強いすることのないよう、利用者の個々の希望に沿って臨機に対応している。本人の希望で散歩や買い物に出かけたり、ゆっくり部屋でテレビを見ていただいたり、思い思いに過ごす時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服は本人に選んでいただくようにしている。出張理髪も利用できるが、希望があれば街の理髪店や美容院へお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れたり、利用者の力量に応じて、食材の買い物・食事作り・食事・後片付けを職員と一緒にいただいている。	ユニット毎に利用者と一緒に献立を作っている。近所の方や職員から野菜の差し入れ等もあり、常に季節の食材を使った食事作りをしている。利用者も野菜の皮むきや大根のすりおろし等、出来る事をしながら食事をするまでの過程も職員と一緒に楽しんでいる。訪問当日もホームの畑から摘んできた菜の花のお浸しが食膳に彩を添えていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調や嗜好により、別メニューや食べやすいもの飲みやすいものを用意したり、入浴後の水分補給など、必要な栄養・水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力量に応じて声かけ、見守り、介助により口腔ケアをしている。義歯は毎日、洗浄剤で清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。トイレ声かけ又は誘導、夜間のポータブルトイレの利用、リハビリパンツ・パッドの活用で個々の力に応じた支援をしている。	紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、日中はパターンに応じた声かけで全員がトイレで排泄できている。夜間はポータブルトイレを利用する利用者もいるが、マットセンサーを利用したり、音声発信機で居室のざわつきを察知したりして利用者の動きに合わせて職員がトイレ介助をしており、日中・夜間共にオムツを使わずトイレでの排泄を支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給とともに便秘予防のための献立を取り入れている。散歩や体操で身体を動かすようにしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の機会を毎日設けることで、無理強いくことなく本人の希望や体調に合わせた入浴をしていただくようにしている。	バイタルチェック等により入浴を翌日にしてもらう事もあるが、毎日、15時過ぎ位からの好みの時間に入浴できるようにしており、毎日入浴している利用者もいる。これまでは広い浴槽でゆったりと入浴を楽しんでもらっていたが、新しいユニットでは個浴用の浴槽を2つ設置する等の工夫をして利用者の希望に合わせた入浴が出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドが合わない方には蒲団で寝ていただく、明かりやテレビがついていると安心して入眠できる方にはそうしていただいている。居間で職員と一緒に昼寝をする方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに「薬の説明書」ファイルを作っている。薬は個別のケースに入れて管理し、力量に応じた服薬支援をしている。症状の変化を把握し、医師や看護師に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・調理・裁縫等の家事のほか野菜作り・ガーデニング・新聞・読書・カラオケ・テレビ・買い物・ドライブ等、一人ひとりの趣味や経験に応じた活動ができる機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって前庭に出たり、近辺の散歩に出かけている。ボランティアと一緒に買い物に行ったり、ドライブ・外食・喫茶・ピクニック等、戸外へ出る機会を多く設けている。家族と自宅・外食・墓参に出かける方もいる。	天気の良い日には散歩に出かけたり、敷地内の畑に出かける等常に外の空気に触れる生活をしている。毎月の「家族ふれあいデー」には会合の後に家族と一緒に外出を楽しんだり、ボランティアの付き添いで買い物に出かける等それぞれが外出を楽しんでいる。また外食や花見などホームのイベントとして利用者が楽しめる外出の機会も設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、お金を所持していただいたり、本人が衣服や菓子などを買う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を使って自室から電話していただいたり、年賀状のあて名を代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から差し込む強い日差しを遮光シール・カフェカーテン・よしず・朝顔で作った緑のカーテンで遮った。食事に集中できるようテレビを消すこともある。のれんを台所や居室の入口に下げたり季節の花を飾っている。空気清浄機の設置や芳香剤を各所に置き、匂いにも配慮している。	各ユニットの居間は天窓からのやわらかい明るさで落ち着いた雰囲気があり、マリーゴールドや観葉植物で季節感を採り入れていた。壁面には利用者の日常を写した写真や利用者が趣味で撮った写真等が飾られ、訪問した人の目にもホーム全体の和やかな日常が伝わり何時までも居たくなるような居心地の良い場となっている。畳の部分にあるコタツでは食後に職員も一緒にテレビを観ており、職員と利用者が信頼によって作りだしている居心地の良さも感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳敷きの中央にコタツを置き、ゆったり過ごせる居間がある。外回りでは、庭や玄関に椅子・ベンチを各所に配置し、居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に入居前の馴染みの物品の持ち込みを勧めている。椅子・鏡台・タンス・仏壇・壁飾り・写真・時計・置き物等、一人ひとりが思い思いの品を居室に置いて過ごしている。	各居室はフローリングや畳の部屋等があり、それぞれに洗面台やクローゼット・物入れが備え付けになっていて、身支度や整理がし易くなっている。利用者は使い慣れたタンスや物入れ、テレビ等を置き、家族の写真や幼稚園児からの贈り物のメダル等を飾るなどそれぞれが個性的で安心して過ごせるような居室作りをしていた。新ユニットの窓は全てはき出しにする等自由に外に出られるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせ、新たな手すりや移動用バーを設置したり、和室にベッドや歩行補助機を導入した。利用者の目線に合わせた居室・トイレの案内表示の追加や居室とトイレの間の床にテープを貼り目印にさせていただくなどの工夫をしている。		